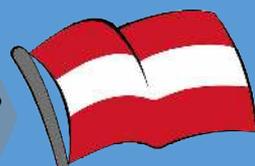




2023年度ウィーン



オーストリア

派遣高校生大募集!

シュテファン寺院

国連UNOシティ



ウィーンの高中生との交流



荒川区の親善大使として、ホームステイを通じ
ウィーン市ドナウシュタット区の高校生とお互いの
言語や文化を学び合い、国際的な視野を広げませんか？
荒川区国際交流協会はチャレンジする高校生を応援します！

派遣先

オーストリア共和国ウィーン市ドナウシュタット区

日程

派遣：2023年 7月28日(金) ~
8月 8日(火)(予定)
受入：2023年 8月19日(土) ~
8月28日(月)(予定)

内容

ウィーン市およびその近郊の施設見学・学習、ホームステイ、
帰国後の報告書作成、派遣報告

費用

16万円程度
(予定経費【渡航費、宿泊費、食費等】の約1/2相当)
お支払方法は一括払いのみとなります。

対象

荒川区内在住の高校生 6人(書類と面接で選考)
8月下旬にドナウシュタット区の高校生を家に受け入れることが
できる方

応募
方法

応募書類を協会事務局に持参または郵送
2023年5月9日(火)(必着)

申込み
問合せ

荒川区国際交流協会事務局
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3 荒川区役所 文化交流推進課内
(区役所 3階 番窓口)
電話：3802-4805 メール：kokusai@city.arakawa.tokyo.jp

詳細は、荒川区国際交流協会のホームページをご覧ください。

<http://www.arakawa-kokusai.com/>





ウィーン市ドナウシュタット区 2023年度 派遣高校生 募集要項

応募条件

- 申し込み時から派遣時を通じて区内に在住していること。
- ウィーンからの派遣生（男女問わず）のホームステイを受け入れること。（8月中～下旬）
- 国際交流に関心があり、派遣の目的を理解し、派遣終了後も荒川区国際交流協会のボランティア会員として事業に協力できること。
- 健康で、海外生活やホームステイ、団体行動、交流事業に対応できること。
- 日本の生活や文化、荒川区について積極的に紹介できること。
- 保護者の同意が得られること。
- 英検3級程度以上の英会話力があること（公用語はドイツ語）。
- 事前研修会および事後報告会にすべて参加できること。

応募書類

- 参加申込書一式（区役所・区内図書館・区民事務所で配布）
- 作文「私が考える国際交流」（縦書き原稿用紙3枚、1000～1200字程度、手書き）
 - 作文には、次の項目を必ず記述してください。（1）ウィーンに関して興味があるテーマ、（2）テーマに関してウィーンへ行ったらやりたいこと。

選考日程

- 5月9日（火） 応募書類受付締め切り
- 5月15日（月） 書類審査結果および選考面接時間通知発送
- 5月20日（土） 荒川区役所にて面接審査
- 5月24日（水） 審査結果通知発送

派遣決定後に、健康上の理由または派遣に不都合な理由が生じた場合、派遣の資格を取り消すものとします。派遣資格が取り消された場合、または派遣者の都合により取りやめた場合、それまでに要した経費および取消に係る経費は応募者の負担となります。

説明会・研修

- 内定者説明会 5月31日（水）18時～（場所：荒川区役所）予定 出席者：保護者・派遣生
- 事前研修会 6月中旬～7月下旬 計3回程度予定 出席者：派遣生
（内容：異文化コミュニケーション、独語・英語研修、元派遣生との交流）
- 出発式 7月下旬予定 出席者：派遣生
- 派遣報告・受入説明会 8月中旬予定 出席者：保護者・派遣生
- 事後報告 9月下旬～ 計3回程度予定（派遣報告集の作成）

事後報告には3月初旬開催予定の協会主催「外国人のための日本語スピーチ大会」の運営補助を含みます。



2019年度 派遣生の声



Q. 英語は大丈夫だった？



A. Mさん

英語が苦手だったこともあり、10日間ちゃんと過ごせるか心配でしたが、ホストファミリーが温かく迎えてくれた事で、英語とコミュニケーション力に自信を持つ事が出来ました。

Q. ウィーンで学んだことは？



A. Kさん

特に印象に残っているものは、「ベルナール峠からアルプスを超えるボナパルト」という絵画です。この絵画は、フランス革命を学習すると必ず教科書に出てくると思います。この絵画の躍動感に胸を打たれ、思わず鳥肌が立ってしまいました。

Q. ウィーンのホストファミリーの様子はどうだった？



A. Mさん

私は、初めて英語だけで過ごすことにとっても不安がありました。でも、初日に顔合わせをした時、笑顔で迎えてくれて、たくさん話しかけてくれたので、とても安心して充実した10日間を過ごすことができました。

Q. ウィーンの高校生を受け入れた時は？



A. Sさん

日本の高校生とオーストリアの高校生の意思疎通がうまく出来ず少し揉めてしまった事があったのですが、最終的にメンバー全員でしっかり話し合っって自分達の力で和解し、さらに友情を深める事が出来ました。